

市町村教育委員会と県教育委員会との懇談会の開催結果について

教育総務課

1 趣 旨

長野県教育委員会が重点的に取り組む教育施策について、市町村教育委員会との共通理解や相互の認識を深め、連携を強化するとともに、教育の新たな課題を把握し的確に対応するため、懇談会を開催する。

2 開催日程

教育事務所	日時	対象地域	出席委員
東信	7月25日(水)	佐久、上小地域	高木委員
南信	7月13日(金)	諏訪、上伊那地域	矢崎委員長 耳塚委員長職務代理者
	7月23日(月)	飯伊地域	矢崎委員長 野村委員
中信	8月7日(火)	木曾、大北・安曇野、 松塩筑地域	矢崎委員長 高木委員
北信	7月24日(火)	長野、北信地域	矢崎委員長 生田委員

3 出席者

【市町村教育委員会(学校組合含む)】 教育委員長、教育長等

【県教育委員会】教育委員、教育長、教育次長、教育事務所長、関係課(室)長等

4 開催概要

(1) あらかじめ設定したテーマによる協議

- ・ 「第2次長野県教育振興基本計画」について
- ・ 教員の不祥事発生防止について

(2) 県からの施策説明等

- ・ 中学校30人規模学級編制について
- ・ 学校経営概要について
- ・ 「長野県特別支援教育推進計画」(案)について

※市町村教育委員会からの主な意見は別紙のとおり

市町村教育委員会からの主な意見

協議事項等	主な意見・提案・要望
「第2次長野県教育振興基本計画」について	<p>【計画に盛り込むべき内容、長野県ならではの教育として推進していきたいこと】</p> <p>○計画全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような取組によって達成目標に近づけていくのかという要素を盛り込んでほしい。 ・過去の延長に現在があるので、過去をしっかりと評価した上で策定してほしい。 <p>○発達障害、特別支援教育等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな学習障害、重複障害などをもち、特別支援教育が必要な子どもたちの多様な能力を伸ばす教育や学び合う環境づくりを推進してほしい。 ・見通しが持てて達成感があって学力がつくという「授業がもっとよくなる3観点」(県教委作成)が、発達障害のある子どもにとっても有効な授業パターンであり、ひいては全員の子どもに有効であるので、この3観点の要素を盛り込んでほしい。 ・子どもたちの多様性をもっと認めていくような教育を推進してほしい。 ・特別支援教育の地域化の方向性について盛り込んでほしい。 ・特別支援の高等部生徒数が増加しており、特に松本養護学校の人数が急激に増加している。松本市内から安曇野に電車通学している生徒もいるので、通える分教室の設置をお願いしたい。 ・筑北地域に、技術的な力の習得が可能な専門性のある特別支援学校の分室設置をお願いしたい。 <p>○幼稚園・保育所、小学校の連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上や発達障害の早期発見等の観点から連携が非常に重要である。 ・幼児期教育の施策について盛り込んでほしい。 <p>○家庭の教育力について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の問題などについて、しっかりと家庭の相談にのるための家庭訪問事業を盛り込んでほしい。 ・「親育ち」について盛り込んでほしい。 <p>(親になる準備ができていない状況で親になる人が多く、一人ひとりが抱えている課題が複雑化)</p> <p>○地域等との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域等をつなげる人材を育てるとともに、活動の場の確保を進めてほしい。 ・地域のさまざまなマンパワーを活用することについて盛り込んでほしい。 ・地域の子どもは地域で育てるといふ地域と一緒に育つ教育について盛り込んでほしい。 ・コミュニティ・スクールについては地域に根差した形で進めていくことが大切である。

○学力向上について

- ・小中連携して学力向上に取り組むシステムづくり(合同で授業研究を行うなど)を進めていきたい。
- ・県が強いリーダーシップを発揮して学力向上の取組を推進することが重要である。

○教員の資質向上について

- ・教員がお互いに力を出し合う、教員同士がお互いに語り合うという意味での「学校力の向上」について盛り込んでほしい。
- ・教員同士がお互いに学び合って資質を向上させていける環境作りについて盛り込んでほしい。

○その他

- ・不登校対策、いじめ根絶が非常に重要な課題である。
- ・体力向上は学力向上とも相関関係があり非常に重要なので盛り込んでほしい。
- ・地域に根差した高校を目指すため、高校教育にもメスを入れてほしい。
- ・幼稚園・保育所、小学校、中学校、高校までの一貫した教育システムの構築を進めていきたい。
- ・キャリア教育の推進について、企業や地域等との連携が重要な課題である。
- ・学校と地域と家庭と行政が連携した食育の推進について盛り込んでほしい。
- ・子ども達は大人よりも被曝の影響が大きいので、東日本大震災に伴う福島原発の放射能問題にかかる施策を盛り込んでほしい。
- ・情報教育の推進について盛り込んでほしい。
- ・ふるさと教育について盛り込んでほしい。(ふるさとに心を寄せる学習の場の設定等)
- ・自然を学ぶ教育について盛り込んでほしい。
- ・命の大切さを自覚してもらう教育について盛り込んでほしい。
- ・県が小さな市町村教委をバックアップしていくような体制や、県と市町村の関係について盛り込んでほしい。

【「学ぶちから・学校力専門委員会」の提言について】

- ・計画に盛り込むべき項目が多い、すなわち子どもへの要求が多すぎるのではないか。
- ・「確かな学力」「社会的・汎用的能力」など言葉がわかりにくい。
- ・「長野県の教育スタンダード」の設定に魅力を感じる。
- ・「長野県の教育スタンダード」の視点であるポテンシャルとアイデンティティをしっかりと生かしてほしい。

【非違行為防止に必要なこと】

- ・教員1人1人の研究と修養
- ・各教員が、これは他人の問題ではなく自分自身の中の問題だと捉える自覚
- ・校長や教頭が、心配な教員、生活に張りがない教員、孤立している教員、専門職としての意識が薄い教員、極端に勝ち負けにこだわるような教員等に対して、様子をよく見ながら適切に助言
- ・教員応援団的な市町村教育委員会としての姿勢
- ・学校における教員同士の本の読み合わせ
- ・教員が、家庭での時間を大事にして、ゆとりのある生活を送ること
- ・教員が過重なストレスをうまく発散、解消していくこと
- ・教員が、どんなに忙しくてもお互いにグチが言い合える、開かれた教員集団作り
- ・性的な不祥事を起こした教員の心理状態などにも踏み込んで分析し、その分析結果を今後の採用等で生かしていくこと

【「教員の資質向上・教育制度あり方検討会議」について】

- ・県費負担教員と市町村教委との関係について整理してほしい。
(県教委から採用されているためか、教員の市町村(地域)への帰属意識の薄さなどが問題)
- ・今の子どもたちはグローバル社会を生きていくことになるが、教員も長野県の中だけでなく、教育先進県などに出向いて長期研修することが大事。
- ・新たな評価制度を検討することも大事だが、今ある評価制度が本当に機能しているのかという視点で検討してほしい。

【学校経営概要について】

- ・数値よりも、課題や県としての考察をフィードバックしてもらいたい。

【その他】

- ・「場面緘黙症」について、研修等による啓発指導をお願いしたい。
- ・特に技術・美術については、講師が勤務条件の厳しい中、何校かかけ持ちして学校を回っている状況だが、正規の教員が安心して回れるようにしてほしい。
- ・県歌「信濃の国」があることは素晴らしいこと。この「信濃の国」を大事にしていくためにも、共育クローバープランのように、県の方から「信濃の国」の学校への普及を推進してほしい。
- ・不登校児童生徒数のカウントについて、学校や教員の努力によって中間教室に辿り着いた子どもについては不登校ではないというカウントにできないか。長野県独自のとらえ方をしてもよいのではないか。